

織田信長と豊臣秀吉 二（千字）

戦国時代の終わりに、日本をまとめようとした二人の武将がいる。織田信長と豊臣秀吉である。秀吉は信長の家来で、信長の死後にそのあとをついだ。

織田信長は、尾張（今の愛知県）の大名の家に生まれた。父のあとをついで大名となり、桶狭間の戦いで、大軍をひきいて攻めてきた今川義元をわずかな兵で破って名を上げた。信長は、新しい道具や考え方を取り入れた。長篠の戦いでは、鉄砲を大量に使って武田の騎馬隊を破った。安土城の城下町では楽市楽座を行い、だれでも自由に商売ができるようにした。信長は、室町幕府をほろぼし、各地の大名を次々とたおして勢力を広げた。しかし、天下統一を目前にして、家来の明智光秀にそむかれ、京都の本能寺で命を落とした。

たとえば、長篠の戦いでは、信長は多くの鉄砲を用意し、鉄砲隊を何列にもならべた。鉄砲隊の前には木のさくを立て、武田の騎馬隊が近づけないようにしたうえで、いつせいに鉄砲をうった。鉄砲は、ポルトガル人が種子島に伝えてから、まだ三十年ほどしかたっていない新しい武器だった。信長は、その新しい武器を戦いの中心にすえたのである。

豊臣秀吉は、同じ尾張の、身分の低い家に生まれた。はじめは足輕として信長に仕え、はたらきをみとめられてしだいに出世し、やがて城を持つ武将にまでなった。秀吉は、世の中のしくみを整えた。全国田畑の広さや土地のよしあしを調べる検地を行い、百姓から確実に年貢を取れるようにした。また、百姓から刀や鉄砲を取り上げる刀狩を行い、百姓が武器を持って反抗できないようにした。秀吉は、信長の死を知るとすぐに引き返し、明智光秀をたおして、信長のあとつぎの立場を手に入れた。大阪城を築いて本拠地とし、朝廷から関白に任じられて、各地の大名を従えていった。そして一五九〇年、関東の北条氏をほろぼして、天下統一を成し上げた。

秀吉の役人が全国の村をまわり、田畑の一つ一つを同じものさしとますではかった。これが検地である。それまでは土地によつてはかり方がばらばらだったが、どの村でも同じやり方で、田畑の広さと米のとれ高を調べられるようになった。調べた結果は帳面に書きとめられ、その田畑を耕す百姓の名前もいっしょに記された。だれがどの土地を耕し、どれだけの年貢を納めるかが、はつきり決まったのである。刀狩では、取り上げた刀を大仏を作るためのくぎにするとして、百姓に武器を差し出させた。

信長は、古いしくみをこわした。秀吉は、そのあとに新しいしくみを築いた。

織田信長と豊臣秀吉 二（千字） 課題

課題一

この文章を二百十字以内で要約しよう。

[illegible]

課題二 比べている観点を三つ書こう。

①

②

③

織田信長と豊臣秀吉 三（千字・硬い語彙）

戦国時代の末期に、日本の統一を目指した二人の武将がいる。織田信長と豊臣秀吉である。秀吉は信長の家臣で、信長の死後にその後継者となった。

織田信長は、尾張（現在の愛知県）の大名の家に生まれた。父の跡を継いで大名となり、桶狭間の戦いで、大軍を率いて侵攻してきた今川義元をわずかな兵力で破って名を上げた。信長は、新しい道具や思想を積極的に導入した。長篠の戦いでは、鉄砲を大量に使用して武田の騎馬隊を撃破した。安土城の城下町では楽市楽座を実施し、誰でも自由に商売ができるようにした。信長は、室町幕府を滅ぼし、各地の大名を次々と打倒して勢力を拡大した。しかし、天下統一を目前にして、家臣の明智光秀に背かれ、京都の本能寺で生涯を終えた。

長篠の戦いでは、信長は多数の鉄砲を用意し、鉄砲隊を何列にも配置した。鉄砲隊の前方には木製の柵を設け、武田の騎馬隊が接近できないようにしたうえで、一斉に射撃した。鉄砲は、ポルトガル人が種子島に伝来させてから、まだ三十年ほどしか経過していない新兵器であった。信長は、その新兵器を戦闘の中核に据えたのである。

一方、豊臣秀吉は、同じ尾張の、身分の低い家に生まれた。当初は足輕として信長に仕え、働きを認められて次第に昇進し、やがて城を有する武将にまで至った。秀吉は、社会の仕組みを整備した。全国の田畑の面積や土地の良否を調査する検地を実施し、百姓から確実に年貢を徴収できるようにした。また、百姓から刀や鉄砲を没収する刀狩を実施し、百姓が武器を持って反抗できないようにした。秀吉は、信長の死を知ると直ちに引き返し、明智光秀を打倒して、信長の後継者の地位を獲得した。大阪城を築いて本拠地とし、朝廷から関白に任命されて、各地の大名を服従させていった。そして一五九〇年、関東の北条氏を滅ぼして、天下統一を達成した。

たとえば、検地では、秀吉の役人が全国の村を巡回し、田畑の一つ一つを統一されたものさしとますで測量した。それまでは土地によって測量の方法が不統一であった。しかし検地によって、どの村でも同一の方法で、田畑の面積と米の収穫量を調査できるようになった。調査の結果は帳簿に記録され、その田畑を耕作する百姓の名前も併せて記載された。誰がどの土地を耕作し、どれだけの年貢を納めるかが、明確に確定したのである。刀狩では、没収した刀を大仏建立のための釘にするとして、百姓に武器を供出させた。

旧来の仕組みを破壊するか、新たな仕組みを構築するか。二人の事業の相違は、先行した者と後を継いだ者の相違に由来している。

